

2024年2月13日～15日

第21回 日韓 YWCA ユース・カンファレンス 活動報告書



公益財団法人 日本 YWCA
ユース・ジェンダー小委員会

目次

概要.....	2
参加者.....	3
日程表.....	3
プログラム内容.....	4
ユース参加者報告.....	6
1 日目	6
2 日目.....	13
3 日目.....	27
参加者個人報告	32
ユース・ジェンダー小委員会メンバー	32
参加メンバー.....	39

概要

趣旨

「日韓ユース・カンファレンス」は、日本と韓国のユースが直接出会い、学び、交流するスタディツアーです。政治家やメディアにつくられた日韓関係ではなく、一人ひとりがお互い顔の見える信頼関係をつくることで、平和な東アジア地域の平和を築くことを目的としています。

2年に1度、環境・ジェンダー・原発など、日韓両国に共通するホットな課題を取り上げ、フィールドワークや対話を通じて、学びと友情を深めます。

日韓ユース・カンファレンスは、韓国 YWCA と日本 YWCA のユース活動を活発に展開し、友好的な関係を築くため、1993年に始まりました。両国のユースたちが互いに対するより深く正しい理解を持って、共に協力できる活動を探し、実践できる場を設けることに重点を置いています。両国の文化交流、YWCA ユース活動情報交換、互いの関心のある事柄の研究、共同事業計画及び報告など行ってきました。さらにカンファレンスの後には、両国のユースたちが、自分が所属する地域社会や国内で実践可能な活動を展開することで、両国のユースたちの社会参加運動にも寄与してきました。

日程

2024年2月13日(火)～15日(木)

テーマ

ユースの日常の中、WPS(Women, Peace and Security:女性・平和・安全保障)

場所

- ・ 韓国 YWCA:
- 住所:ソウル市中区明洞路 73、ペイジ明洞 4 階
- 連絡先: +(82)-02)774-9702
- ホームページ: ywca.or.kr

<フィールドワーク>

- ・ 戦争と女性の人権博物館:
- 住所: ソウル市麻浦区ワールドカップ北路 11 ギル 20
- 連絡先: +82) 2-392-5252
- ホームページ: <https://womenandwarmuseum.net>
- ・ ホテルスカイパーク明洞1号店(Hotel Skypark Myeongdong1) :
- Hotel Location :24-23 Chungmu-ro 1-ga, Jung-gu, Seoul Korea
- Tel : 02)6900-9300 Fax : 02)6900-9309

参加者

日本 YWCA

ユース・ジェンダー小委員会:五十嵐 望美(東京 YWCA、小委員会委員長)、飯綱 萌(大阪 YWCA)、
藤田 青空・三上 奈桜・山口 紗妃(名古屋 YWCA)

参加者:河越 英里(東京 YWCA)、福濱 莉夢(甲府 YWCA)、松永 優佳(名古屋 YWCA)、森 陽菜(東京 YWCA)

臼井 一美・畠 舞衣子(日本 YWCA スタッフ)

韓国 YWCA

パク・ジイン(富川 YWCA)、パク・ボグン(富川 YWCA)、ソ・ダミ(全州 YWCA)、イ・ハンソ(水源 YWCA)、ファン・インヒョク(水源 YWCA)、ペ・ヨンビ(大戦 YWCA)、キム・ハラム(大戦 YWCA)、
イ・エリム(安養果川軍浦義王 YWCA)、シム・ジンシル(昌原 YWCA)、パク・ウンジ(清州 YWCA)
キム・スジン、イ・ハンビツ、ソン・ジス、コ・マウム、ソン・ロクフィ(韓国 YWCA スタッフ)

日程表

日付	2月13日(火)	2月14日(水)	2月15日(木)
7:30 ~ 8:00	移動	朝食	朝食
8:00 ~ 9:00		集合後移動	
9:00 ~ 10:00		フィールドトリップ 1	YWCA ユース活動報告
10:00 ~ 11:00		戦争と女性の人権博物館	特別講演 3
11:00 ~ 12:00		移動	
12:00 ~ 13:00		フィールドトリップ 2 水曜デモ参加	昼食
13:00 ~ 14:00		昼食	アクションプランを定める
14:00 ~ 15:00	登録	移動	クロージング
15:00 ~ 16:00	オープニング / オリエンテーション	特別講演 2	
16:00 ~ 17:00	特別講演 1		
17:00 ~ 18:00	ナショナルレポート	ディスカッション	
18:00 ~ 19:00		夕食 &	

	グループディスカッション (時間の関係上 2 日目に 移動)	文化交流の夜(韓国 YWCA)	
19:00 ~ 20:00	夕食		
20:00 ~ 21:30	文化交流の夜 (日本 YWCA)		

プログラム内容

Feb 13th. (1st day) Sharing Feminism in Korea and Japan			
時間		プログラム	内容
- 15:00		登録	
15:00-15:10	10分	オープニング	
15:10-15:40	30分	オリエンテーショ	
15:40-17:10	90分	特別講演1	WPS&日本と韓国のフェミニズムとジェンダーの葛藤
17:10-17:20	10分	休み時間	
17:20-18:20	60分	国家報告	韓国と日本のフェミニズムと「ジェンダー葛藤」
18:20-19:00	40分	グループ分け	
19:00-20:00	60分	夕食	
20:00-21:30	90分	文化交流の夜	おまつり体験 (室内)

Feb 14th (2nd day) Women's Political Participation			
時間		プログラム	内容
7:30-8:30	60分	朝食	
8:30-09:30	60分	集合後移動	
09:30-11:00	90分	フィールドトリップ1	戦争と女性の人権博物館
11:00-12:00	60分	移動	
12:00-13:00	60分	フィールドトリップ2	水曜デモ参加
13:00-14:30	90分	昼食	
14:30-15:00	30分	移動	
15:00-16:30	90分	特別講演2	女性の政治参加がWPSにどのように役立つのか
16:30-18:00	90分	朝食ディスカッション	
18:00-20:30	150分	夕食 & 文化交流の夜	明洞と鍾路一帯グループツアー（屋外）

Feb 15th (3rd day) Youth-Led Social Activism			
時間		プログラム	内容
8:00-9:00	60分	朝食	
9:00-10:00	60分	活動報告	YWCA青年が主導してきた社会運動活動報告
10:00-11:30	90分	特別講演3	青年が主導する社会運動の重要性
11:30-13:00	90分	昼食	
13:00-14:30	90分	アクションプランを定める	
14:30-15:00	30分	クロージング	

ユース参加者報告

1 日目

オープニング:三上 奈桜

日韓ユースメンバー双方が少し緊張した面持ちで始まったオープニングセッション。各自の机の上には、歓迎のお菓子がお皿いっぱい盛られ、韓国 YWCA の皆さんの温かい歓迎の気持ちに心が温まりました。平和を求める祈りを行ったあと、心の振り返りとして私たち各個人にとっての WPS(女性・平和・保障)はどのようなものを感じるかを、各個人自分たちの心と向き合いながら振り返りました。続いては私たちにとっての平和とはどのようなものかをそれぞれが一言で表し、紙に書いて共有しました。お互い、なるほどと感じる言葉やもっと深く理由を聞いてみたいと思うような言葉もあり、この 2 泊 3 日の日韓ユース・カンファレンスを通してさまざまな交流ができることを期待して始まりました。オープニングの最後には韓国 YWCA の連合会ウォン・ヨンヒ会長からの歓迎のメッセージをいただき、「この日韓ユース・カンファレンスは、我々のためだけでなく全世界の女性のためになる可能性と価値を秘めている」という力強い言葉をいただき締めくくりました。



オリエンテーション:森 陽菜

オリエンテーションでは、日韓ユース・カンファレンスでの業務連絡が行われました。参加者の紹介では、韓国ユースのメンバー、日本ユースのメンバー、今回のカンファレンスに関わる職員さんの自己紹介がありまし

た。韓国ユースのメンバーには日本語を話せる参加者も多く日本語で自己紹介をしてくださる方が多い印象でした。当日は翌日がバレンタインデーということもあり、韓国からの参加者のリーさんが作ったお菓子の紹介もありました。日程やプログラムの内容、宿泊場所の紹介があり、オリエンテーションの最後には「2泊3日よろしくお願いします」の気持ちを込めてみんなで拍手をしました。



特別講演1 「WPS&Feminism in Korea and Japan WPS&日本と韓国のフェミニズムとジェンダーの葛藤」：五十嵐 望美

1 日目の特別講演では、聖公会大学東アジア研究所副教授のチョ・ギョンヒさんからお話を頂きました。チョさんの講演では、今回の日韓ユース・カンファレンスのテーマである WPS (Women, Peace, Security) への理解を深めるための基礎の枠組みとなる重要な話題をご紹介頂きました。チョさんが在日コリアン3世として日本に暮らしながら学生に教えてきたご経験から日本の学生たちが「人権は個人の問題であり、平和・安全保障は世界(自分ではない誰か)の問題である」と考える傾向があることを言及し、WPS が Peace と Security を Women の観点から捉える考え方であり、平和・安全保障の問題をジェンダーの眼差しによって再構成することの意義をお話くださいました。そして、WPS が交差性(インターセクショナリティ)の議論とも密接に関わっており、済州島の女性たちが島に上陸した難民に対して反対運動を行った例を挙げて、女性を感じる恐怖心や嫌悪感を異なるマイノリティ性を抱える難民の人に向けることは根本的な問題の解決にならないことを指摘しながら、わたしたちが平和・安全保障の問題についてどのように向き

合っていいのかについてさまざまな観点を提供してくださいました。私自身もチョさんのお話を受けて、最初の講演から非常に重要なテーマのお話を聞いたことに多くの刺激があり、改めて WPS というテーマで、日韓ユースで議論することの意義をととても強く感じた時間でした。



ナショナルレポート: 福濱 莉夢

韓国 YWCA によるナショナルレポート発表

韓国 YWCA からのナショナルレポート発表では、初めに「ジェンダー葛藤」についての報告がありました。現在、韓国ではさまざまな分野でジェンダー葛藤を経験しており、今後も男女の対立が深刻化していくことが懸念されています。韓国では、2015~2017年に運営されたメガリアというオンラインフェミニズムのコミュニティでミラーリングとして使用した“人差し指のマーク”が社会的に男性嫌悪の象徴となってしまう問題が起きました。その後、オンライン上で男性と女性が相互にヘイトを繰り返し、ヘイトに満ちた表現が社会問題にまでなりました。女性嫌悪の用語だけでなく男性嫌悪の用語もあり、韓国は女性へのヘイトと男性へのヘイトを相互にミラーリングし、嫌悪を嫌悪で返す社会となっていたことが分かりました。韓国社会は激しい性別葛藤の状況に置かれ、ファクトチェックなしで審判を行うまでに嫌悪表現に敏感な社会になっています。その例として、





ネクソンというゲーム会社のアニメーション映像の事件が挙げられ、“男性嫌悪の象徴を女性職員が描いただろう”という疑惑一つで会社や個人みんなが多大な被害を受けた事件を紹介しました。

次に「女性性と男性性」について、女性のみならず男性も社会に固着化したイメージのために性別

による差別を経験するとの報告がありました。韓国ではステレオタイプが蔓延し、フェミニズムが浸透しづらい状況があります。「性差別の事例と解決過程」として、韓国は OECD 諸国のうち男女賃金格差が 30%を超える唯一の国であり、ジェンダー格差が最も大きいという報告がありました。韓国は家父長制というかつての慣習が現代社会にまで影響を及ぼし、女性の家事のワンオペが問題となっています。その一方で、男性も同じように差別を経験し、性的役割を果たすための過度の負担からストレスや自殺を引き起こすこともあります。

ジェンダー平等社会の実現のために、フェミニズムは大きな役割を果たします。フェミニズムの最終的な目的地は、フェミニズムを話す必要のない状態であるのではないのでしょうか。お互いが隣人である世界、人々の日常生活の中にフェミニズムが実現されている社会、つまりフェミニズムの消滅こそがゴールであるとの主張がありました。私たちはフェミニズムの実現のために何ができるでしょうか。葛藤の解決のために語り場を作るという提案があり、少数派の意見に耳を傾ける場や安心して話せる場を作ることが方法として挙げられました。

韓国側の発表から、男性と女性が相互に攻撃し合っているところが日本との違いだと感じました。また、私たちが日常的にフェミニズムやジェンダー平等の重要性について、自分自身の意識を高めていき、まずは個人レベルで取り組んでいくことが重要



であると考えました。フェミニズムが当たり前のように実現され、フェミニズムという概念自体が消滅する社会になればいいなと思います。

日本 YWCA によるナショナルレポート発表

日本側からの報告はトピックが大きく3つに分かれており、1つ目が「日本の女性の政治参画」、2つ目が「日本の女性の生きづらさ」、3つ目が「米軍基地問題」でした。

1つ目のトピックでは、「日本の女性の政治参画の歴史」、「女性議員が増えない要因」、「女性の政治参画を促進するムーブメント・市民運動による成果」について発表しました。

「日本の女性の政治参画の歴史」では、1946年に初めて女性国会議員が誕生してから、女性が政治参画することができる法の整備が大きく進んでいく中で、政治分野では女性の政治参画に未だ多くの課題が残っていることを報告しました。「女性議員が増えない要因」では、日本において政治の世界では家父長制の特徴を含んでいることや選挙立候補時点における必要な資源のジェンダー格差という2点に絞って報告しました。「女性の政治参画を促進するムーブメント・市民運動による成果」では、女性の政治参画を応援する市民団体の取り組みとして“パリテ・アカデミー”と“FIFTYS PROJECT”などを例にとり、女性の政治参画が大きく進み始めた地域がある一方で、深刻なバックラッシュや女性が政治的・社会的なリーダーシップを取ることがきわめて難しい状況も依然としてある状況を報告しました。

2つ目のトピックでは、日本の電車内にある脱毛の広告やYouTubeの二重整形の広告を例に挙げ、女性が日常的に「こうであるべき」という姿を見せつけられ、無意識のうちに女性だからそうでなければいけないと思わされる環境に置かれている現状を報告しました。また、日本の問題として女性に対するステレオタイプな認識、女性蔑視をする人が政界にいることにも言及しました。日本の女性が日々の生活の中で生きづらさを感じる原因は性別による役割分担意識が根強く残っていることであると報告し、自分の価値観を大切にすることが重要であると主張しました。



3つ目のトピックでは、日本の軍事・安全保障の問題であり、戦後処理と植民地主義に関わる在日米軍基地の問題について、「日米関係」「基地と沖縄の状況」「基地に起因する環境問題(PFAS)」の3点を中心に報告

を行いました。「日米関係」では、在日米軍基地に起因する事故や事件の被害が基地の多い沖縄県に集中している現状や、日米地位協定によって被害者や被害者を支援する人々にとって納得のいかない結果に終わることが珍しくないことについて発表しました。「基地と沖縄の状況」では、辺野古への新基地移設に関する“代執行”の問題について報告し、沖縄と日本政府の関係性や地方自治に影響を与える可能性について考えました。「基地に起因する環境問題」では、米軍基地に起因する有害物質“PFAS”の漏出事故による環境汚染や近隣住民への安全が保障されていない状況について報告しました。

家父長制や性別役割分担意識、女性が生きづらさを感じるジェンダー格差があるといった共通の問題を持つ韓国側に日本の状況を共有したことで、共感や新たな気づきも生まれ、互いにとって実りの多い時間になったと思います。

夕食:松永 優佳

1日目のグループディスカッションが時間の都合により延期になったことで、1日目の夕食で初めてグループに分かれることになりました。始めはぎこちなさがあったものの、自己紹介や雑談を通して、少しずつ気楽に話せるようになっていきました。私のグループでは韓国 Y の方々が積極的に話しかけてくださり、緊張も解れ嬉しかったです。夕食はお弁当を用意していただきました。色々な料理が少しずつ入っており、美味しくいただきました。また1日目の工程が全て終了した後にも、チキンを用意していただきました。夜食のような時間帯のチキンに背徳感を覚えつつ、夕食時よりかなり打ち解けた雰囲気の中かでいただき、より楽しく過ごすことが出来ました。



文化交流(日本):森 陽菜

日本の文化を、韓国 YWCA の方々に楽しんでもらうための時間でした。韓国 YWCA のオフィスを使い、前半にはカルタ遊び、後半にはソーラン節を踊りました。日本のカードゲームといえばカルタ。今回は 6 人ずつ 4 つのチームに分かれてカルタを作成するところから始まりました。アルファベット A~Z(X は除く)から始まる単純な言葉を考えて読み札と絵札を作りました。例えば A だとすれば、「Apple is red」などとても簡単な言葉を使用し、みんなでコミュニケーションを取りながらカルタを作りました。完成したカルタは自分たち以外のチームに順番に回していき、カルチュラルナイトを担当した日本からの参加者がディーラー(読み手)となりプレイしました。カルタに馴染みのある日本人は左手を使うというハンデを用いながら遊びました。1 ゲームごとに獲得したカードの枚数を記録し、すべてのゲームを終えた後の各々総枚数を出しました。出した総数を各自覚えてもらい、言葉を発さずジェスチャーだけで数が少ない順に列を作ってもらうゲームもカルタ遊び終了後に行いました。数に応じて景品を設け、景品は日本の駄菓子で、約 12 種類の駄菓子を用意しプレゼントをしました。



後半は、英語でソーラン節の説明を参加者全員でソーラン節を踊りました。ソーラン節は日本を代表する民族舞踊なので、歴史を紹介しつつ簡単なバージョンにアレンジをしてレクチャーをしました。会の最後に体を動かしみんなで一致団結して踊ることができました。



2 日目

フィールドトリップ①戦争と女性の人権博物館：飯綱 萌

私がこの博物館を訪ねて感じたことは、いかに人間が同じ過ちを何度も繰り返し犯し続けているかということです。

まず、博物館の外にある、蝶の形をしたカードにたくさんの文字が書かれていました。その中には日本語や韓国語だけでなく、さまざまな言語で平和を願うメッセージが書かれていました。このことから、自分たちの国の過去を知り、被害に遭われた方の声に耳を傾けようと世界中から多くの方が訪ねているのだなと感じました。

日本語の音声ガイドを用意してくださっていたので、韓国語が分からない私でも十分に理解することができました。その中でも、特に印象に残っている展示が一つあります。それは、戦時中に性暴力が行われた場所を示した地図です。日本軍が関わっている場所が大半かもしれませんが、日本国内外を問わず、到底数えき

れないほど、多くの場所が示されていました。特に海の近くや大きな港、都市には固まって被害があったことから、兵士が多くいたところにより被害が出たことがはっきりと分かりました。今まで自分が認識していなかった場所にもたくさん印があったため、この事実を重く受け止め、過去の日本が犯した過ちと向き合い続けていこうと思いました。

また、この博物館を見学した後、韓国人の参加者と話した会話も印象に残っています。私たちが訪ねたとき、ベトナム戦争の時に韓国軍から性被害を受けた女性たちに関する特別展示が行われていました。それに関して彼女は、「韓国では戦時中、日本人が私たち韓国人に対して行なった性被害に関しては深く学んできました。でもベトナム戦争のときに同じようなことを韓国人がしていたとは知らなかった。本当に恥ずかしい」と話していました。そのとき私は、日本人はもっと過去に私たちが犯した罪と真正面から向き合うべきだと思いました。それと同時に、どの国の教育も過去の罪には触れたくないんだとも感じました。ですが、私はこのことは目を背けてはいけない事実だと思います。目を背け続けている教育を変えるために、声を上げていきたいと思います。本当にいい経験になりました。ありがとうございました。



戦争と女性の人権博物館の前にある蝶に書かれたメッセージ



性暴力が行われた場所を示した地図

フィールドトリップ②水曜デモ:河越 英里

日本大使館近くの水曜デモの会場まではバスで移動しました。会場に到着すると、すでに YWCA の方々が集まっていました。到着してビブスを着て、スローガン(写真1)を受け取りました。

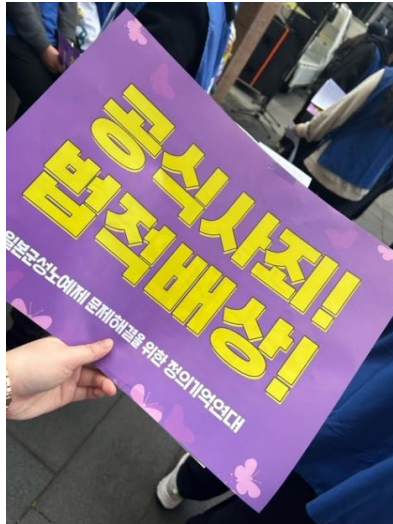


写真 1:公式謝罪・法的賠償を求める水曜デモのスローガン

水曜デモで合唱する민들레는 민들레(タンポポはタンポポ)を短くりハーサルしたのち、水曜デモが始まりました。

デモの進行は韓国清州 YWCA のパク・ウンジさんが務めました。最初に、開会の歌「岩のように」が流れ、韓国 YWCA 連合会のスタッフが踊りました(写真 2)。この歌は戦争と女性の人権博物館でデモの開始を知らせる音楽としてデモの様子に関する展示のところで流れていました。

その後、主管団体の挨拶として韓国 YWCA 連合会会長のウォン・ヨンヒ会長がスピーチを行いました(写真 3)。ウォン・ヨンヒ会長は、日韓 YWCA ユース・カンファレンスについて、また今回のテーマである WPS について、そして WPS と日本軍「慰安婦」問題といった過去の問題について説明しました。

写真 2:「岩のように」を踊る YWCA 連合会のスタッフ



写真 3:主管団体の挨拶を行うウォン・ヨンヒ韓国 YWCA 連合会会長

続いて韓国 YWCA による連帯発言がありました。韓国 YWCA からは Y-teen のキム・ミンソンさんとカンファレンスに参加しているファン・イニョクさんが行いました。キムさんは、昨年に参加した青少年が作る持続可能な世界という大会で、「安心して安全な日常を送れるようになること、そのために、私たちを取り巻く差別や正義でないことに応じること」を平和と定義したと発表しました。そして、記憶しなければならない歴史を記憶し、行動することが平和を実現することに繋がると語りました。記憶し、また解決するために行動しなければならない問題として日本軍「慰安婦」問題を挙げ、去年の大会で取り組んだことについて報告しました(写真 4)。

ファンさんは、戦争が起きない世界、そして戦争が起きたらしっかり回復していける世界を作ることの重要性について語りました。戦争の痛みをよく理解せずに日本政府から被害者への補償と謝罪を受けることができていない韓国政府の問題点について語るとともに、政府へ訴えかけました(写真 5)。

写真 4: 連帯発言を行うキム・ミンソンさん



写真 5: 連帯発言を行うファン・イニョクさん



韓国 YWCA の 2 人の連帯発言を終えたのち、민들레는 민들레 (タンポポはタンポポ) を日韓ユース・カンファレンスの参加者たちで合唱しました。初めて歌う歌でしたが、練習の成果を発揮できたのではないかと思います。私は、合唱している時が最も連帯を感じる瞬間でした。合唱という連帯と、それを同じ場所で一緒に聴いている人々という複合的な連帯を体験することができ、感動しました。

続いて正義記憶連帯のイ・ナヨン理事長が週刊報告を行いました。2023 年 11 月に韓国の裁判所が「慰安婦」として働かされた女性たちへの賠償を日本政府に命じる判決を下した一方で日本政府が応じていないこと、さらに韓国政府もいかなる努力も示していないことを批判しました。その上で、これ以上水曜デモが開催されないことを願いながら闘い続けることを誓いました(写真 6)。

写真 6:週刊報告を行う正義記憶連帯のイ・ナヨン理事長



次に、日本 YWCA から三上奈桜さんと私、そして立教大学のイ・リョンギョン先生が連帯発言を行いました。奈桜さんは、過去に起きたことを記憶しながら2度と同じ悲劇を繰り返すことのないようにしていくことが大切であると述べました。また、3 日目のアクションプランの時に、奈桜さんが、日本人としてどのように水曜デモに参加すべきかを悩んでいたことを明かしてくれました(写真 7)。その後、私は連帯が持つ力についてスピーチしました。連帯が持つ力からもう一歩、その力が日本軍「慰安婦」問題とその解決においてどのような役割を果たすのかまでスピーチできたらよかったと反省しています。日本の連帯発言の最後にはイ・リョンギョン先生がスピーチを行いました。先生には私が大学 2 年生の時に韓国語で文章を書く授業でお世話になった先生で、偶然、水曜デモという場所で再開することができ、とても嬉しかったです。先生は、教える立場の人間として、日本軍「慰安婦」問題に対する日本における認識について語りました(写真 8)。

写真 7:連帯発言を行う三上奈桜さん



写真 8:連帯発言を行うイ・リョンギョン先生



日本の参加者からの連帯発言の後、司会者から参加団体の紹介がありました。

最後に、韓国 YWCA のソ・ダミさん、イ・イエリムさん、パク・ジインさんが声明を朗読しました。日本軍「慰安婦」問題を取り巻く問題(批判や判決、韓国・日本政府の対応など)を批判すると同時に、今後も声を上げていくという意志が語られ、1635 回目の水曜デモが終わりました。

水曜デモを終えた感想としては、もちろん日本政府への批判や要求もありましたが、韓国政府に対する批判があったことが印象的でした。日本からの参加者がいたこともあって、韓国政府に対する批判が行われたのか、もしくは普段のデモでも韓国政府への批判が行われているのか気になったので、生活が落ち着いたら他の団体が主管する水曜デモにも参加してみようと思います。また、韓国政府にも非があるとはいえ、元々の罪を犯したのは日本軍、並びに現在まで続く日本政府であり、謝罪や賠償といった責任をきちんと果たしていないのも現在の日本政府や日本社会における大きな問題であり、最も非難されるべき対象でないかと思います。国を超えた連帯を形成することができることやその価値を実感したので、今後もそのような連帯の中においても、日本人として、また日本人だからこそできる形で日本軍「慰安婦」問題に関わっていく必要があると感じました。日本人として過去の過ちを忘れることなく、そして積極的に語っていきたいと思いました。また、実際にデモに参加し、スピーチをさせて頂き、そこから見えるたくさんの参加者が集った連帯の形

は、連帯発言で私が話したように、今後の私にとって大きな力、慰めになるだろうと思います。素晴らしい経験をさせて頂き、感謝申し上げます。

昼食(2日目):山口 紗妃

2日目の昼食は午前中に訪れた戦争と女性の人権博物館や日本軍『慰安婦』問題解決全国行動(水曜デモ)に参加した感想を共有しながら食事をしました。韓国のユースから一緒に戦争と女性の人権博物館を見学できて、また日本軍『慰安婦』問題解決全国行動(水曜デモ)に参加できて良かったという声を聞きました。初めてのデモ行動に緊張していたメンバーも安心した様子が見られました。昼食は好みに合わせて、いくつかのメニューから選択した物を食べました。どのメニューもボリュームがあって、みんな満腹になりました。午後の活動に向けてより元気になり、ともに食事をしたことで日韓ユース間の仲も深めることができたと思います。ご馳走様でした。



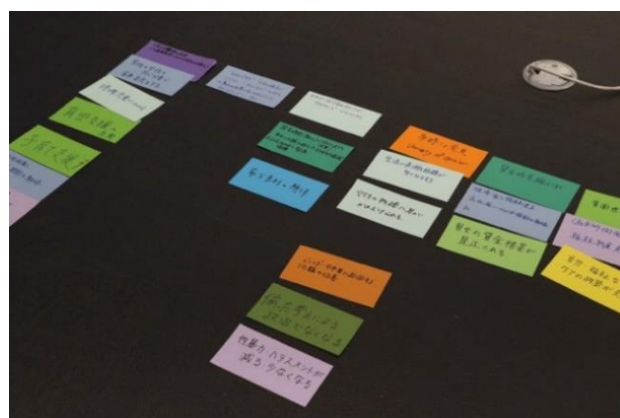
水曜デモの後の、ほっとした昼食の時間



韓国の天ぷら(ティギム)と、茶碗蒸し(ケランチム)、えごまのキムチも。

特別講演②「Women's Political Participation 女性の政治参加が WPS にどのように役立つのか」：五十嵐 望美

2 日目の特別講演では、韓国 YWCA ジェンダー平等委員会の委員長であるキム・ウンギョンからお話を頂きました。キムさんの講演では、世界的にみて日韓を含めてアジア地域における女性議員の割合が少ない状況をご紹介いただきながら、「女性の政治参加が進むと、どんなことが起きるか？」という問いに対して、日韓ユースが思い浮かぶことをポストイットにそれぞれ書き、それを集めて真ん中のスペースに並べながら整理して一緒に考えるワークも行いました。そこでは、多様な意見やマイノリティの意見が採用されやすくなり、ケアワーク(育児・教育・福祉など)の政策が充実するといった意見が出ました。また、平和・安全保障問題の領域で女性が参加する機会が限られていることでジェンダーによる差別的影響が生じており、女性が平和プロセスに参加することの重要性についてお話くださいました。また、多くのユースが気づいた点としてあげていたのが、国際法や国連決議などでジェンダー平等政策に関する取り決めが各国に対して求められている中、自国において既存の法制度が正しく運用・実行されているか、マイノリティの声が拾われてきちんと反映されるような政策や仕組みになっているかについて、わたしたちが監視・確認していくことが非常に重要な役割である点です。フィールドワークの後に聞いたこの講演を通して、わたしたちが今後 WPS についてできることや取り組むべき課題について明確になり、次へのアクションについて考えていけるような感覚を持つことができました。



グループディスカッション：河越 英里

前日(13日)はスケジュールが遅延した関係でディスカッションがなくなり、その分も合わせて14日にディスカッションを行いました。ディスカッションでの議題は、「今日、私にとって意味のあった単語や文章」、「共感した点、または新たに学んだこと」、「韓国と日本のジェンダー葛藤やジェンダー格差の様相」、「日常におけるWPSを保障する方法」の4つでした。私のチームでは、「今日、私にとって意味のあった単語や文章」として「連帯」が挙がりました。水曜デモを通して、日本軍「慰安婦」問題の解決に向けて国を超えた連帯が可能であるということが印象的だったという意見が挙がりました。私は、平等であることが必ずしも平和ではないということが印象的でした。初日に平和と聞いて思い浮かぶことについて書く時間がありましたが、私はそこで平等と書きました。しかし、初日の講義を受けて、平等であることが必ずしも平和であるとは限らないということを知ったことが今回のカンファレンスで最も大きな学びになりました。

「共感した点、または新たに学んだこと」としては、日本の米軍基地問題が挙がりました。特にPFAS汚染問題は初めて聞いたという意見や、日本が日米地位協定のために米軍が問題を犯しても日本に問題を主導して解決する権利がないという点が、日本が朝鮮半島を植民地化していたことと重なるという意見が挙がりました。

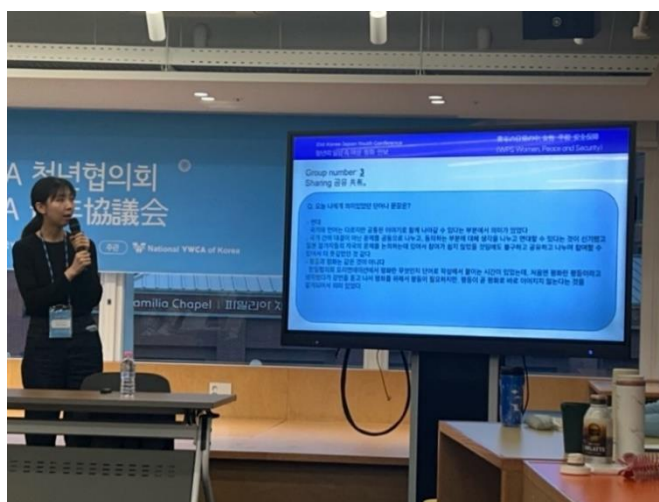
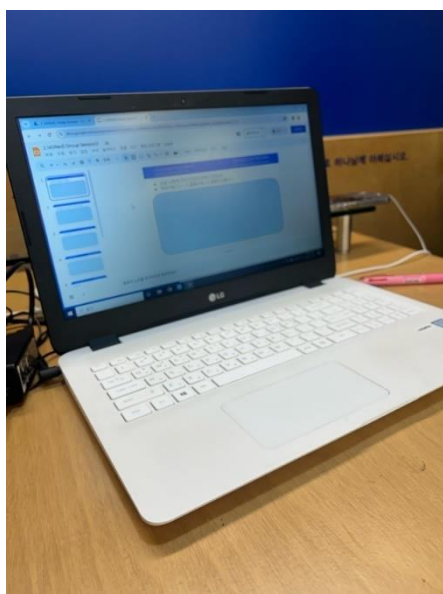
「韓国と日本のジェンダー葛藤やジェンダー格差の様相」としては、日韓の女性が感じる生きづらさに大きな差はないと感じたという意見が挙がったほか、フェミニストであることを簡単に打ち明けることができないことや、「フェミ」という否定的な認識が広がっていることも共通の問題として挙がりました。フェミニズムに対するバックラッシュが強く女性嫌悪的な社会になってきているということに関連して、韓国での江南駅殺人事件と同様に女性嫌悪による犯罪である2021年の小田急線の事件の際に日本ではコロナの影響もあってか韓国のように大きな女性運動に繋がらなかったことを踏まえ、今後似たようなことがあってもバックラッシュが激しいために日本では大きな女性運動には発展しないのではないかとと思うが、韓国で江南駅殺人事件のような事件が起こったら女性運動はどのように展開されるだろうか？という問いに、前回より大きな社会運動・女性運動が展開されるだろうという答えをもらいました。韓国ではバックラッシュは強いけれど、それだけに女性の団結力も高まっており、さらに大きな運動が展開されるのではないだろうかというグループのメンバーが語ってくれました。

「日常における WPS を保障する方法」としては、2 日目の講義を受けて、女性の政治参加が大切だと感じたという意見や、メディアや SNS で性的に有害なコンテンツに子どもや青少年がアクセスできないようにするフィルターが必要であるという意見も出ました。

チーム別討論の後に、その内容を全体で共有しました。比較的多く見られた意見としては、水曜デモへの参加を通じて国を超えた連帯の可能性について新たに気づき、学ぶことができたという意見でした。このような意見を聞いた際に、日本人として水曜デモに参加したことが非常に価値のあるものであったと思うと同時に、日本人の参加を一緒に闘う仲間として受け入れてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

また、個人的には、韓国のフェミニズムに興味があったので、今後の女性運動の展望や展開についての意見を伺うことができて非常に有意義な時間となりました。もちろん、これ以上女性が被害を受けることがないことを願いますが、ジェンダー葛藤が深刻化している現在において女性が被害を受けない保証はないので、今後も韓国における女性運動の動向を見守っていくとともに、日本において有効な女性運動の形についても韓国の例を参考に検討していきたいと思いました。

ディスカッションの記録用に配布された PC



グループ 3 の代表としてディスカッションの内容を発表するパク・ウンジさん

グループディスカッション：飯綱 萌

2 日目のディスカッションで印象に残っているのは、グループの方がおっしゃっていた、女性だからといって一括りにするのではなく一人ひとりと向き合っていきたいということです。1 日目と 2 日目の講演を聞く

までは、WPS 以外の貧困などの問題について考えるときも、以前の私はどうしても集団を一纏めに考えていました。ですが、講演の中で、一人ひとりを見る必要があるとおっしゃっていました。ディスカッションでメンバーの 1 人が、このことが印象に残っているとおっしゃったとき、みんなで大切にしていきたいよねと話しました。私も、統計で決めつけるのではなく、個性や背景をしっかりと見て向き合っていきたいと強く感じました。



文化交流(韓国):各グループより(飯網 萌、河越 英里、松永 優佳、森 陽菜)

□藤田 青空・飯網 萌チーム

私たちのグループは、青空さんのリクエストでジャージャー麺を食べました。少し食べるのが難しかったですが、美味しいご飯と一緒にお互いの大学の話がたくさんしました。専攻がみんな違って、でも YWCA に入って、この場で同じテーマについて何時間も考えているんだなと思うととても感慨深かったです。そのあとはオリーブヤングに行き、マートに行ってお土産を買いました。そのあと、一緒に 4 カット(プリクラ)も取りました。韓国の参加者の方はみんなとても親切でした。私たちとともに行動してくださったお二方も、常に困ったことはないか気にかけてくれました。だから、ただ明洞の街を楽しむだけでなく深い話もすることができました。今度は日本の街も案内しながら、深い話がしたいです。ありがとうございました。

□山口 紗妃・河越 英里チーム

私はパク・ウンジさん、ソ・ダミさん、紗妃さんと 4 人で明洞を巡りました。まずは、安東チムタクで찌닭(チムタク)という肉じゃがの鶏肉バージョンのような韓国料理を食べました。紗妃さんが辛いものが食べられな

いとおっしゃっていましたが、幸いにも安東チムタクのチムタクは辛なくて良かったです。チムタクは私が一番好きな韓国料理で、日本だとあまり売っている飲食店がない、かつ売っているところがあっても鶏肉が骨つきや、骨なしの鶏肉のチムタクを日本(東京)で食べることはかなり難しかったので、久しぶりに食べる事ができて良かったです。

チームのメンバーとチムタク



チムタクを食べた後は、ハニーバターアーモンドのお店や、近くのマートでお菓子などお土産を買いました。私は알맹이(アルメンイ:実)というグミが好きなので、そのグミのライチ味とキウイ味を買いました。また、二日酔い防止의컨디션(コンディション)という錠剤がゼリー状になったものが販売開始したとのことで、買ってみました。2年前に留学中、お酒を飲む機会があったら飲んでいたコンディションですが、コンディションを飲むと頭痛が無くて大変助かった記憶があります。今回購入したコンディションは家族にあげました。

次に写真を撮りました。韓国では4~8フレームくらいの写真を撮ることが近年ずっと流行っていて、至る所に写真を撮るお店があります。お店といっても写真機約4台とカチューシャやかぶりものが置いてある店員のいない場所です。決済はプリクラのように写真撮影ブースで行います。今回は4人でサンリオのキャラクターのカチューシャで写真を撮りました。



4人で撮った写真

写真を撮った後は、紗妃さんが屋台でクレープを買い、近くにあったゴンチャに行きました。日本のゴンチャに最近行ってなかったので分かりませんが、韓国の手チェーンのカフェは注文をキオスクで済ませることがほとんどで、ゴンチャにもキオスクが置かれていました。ですが、現金で購入する場合は直接有人レジで決済をしないといけないため、キオスクで各自頼むものを決めた後、レジで決済をしました。私はワーロンティータピオカを飲みました。

その後は韓国の代表的な雑貨屋である butter と artbox に行きました。またすぐ韓国に来るからたくさん買わないようにしようと思っていたので、特に買ったものはないですが、久しぶりだったこともあり楽しくもあり懐かしくもありました。大学院の近くにも artbox があることを発見したので、これからよくお世話になると思います。

最後に時間があったので近くのオリーブヤングに行きました。夜だからか人が多かったです。オリーブヤングでウィンドウショッピングをしたのち、時間になったので、ホテルに帰りました。

久しぶりに明洞を歩きましたが、人が多く賑わっていて楽しかったです。また、いつものグループに紗妃さんも加わり、いろいろな話をすることができ、短くも有意義な時間になりました。

□五十嵐 望美・松永 優佳チーム

2 日目の夜は、キム・ハラムさんとイ・エリムさんと一緒に過ごしました。韓国 YWCA の中でゆっくり過ごすグループだったので、夕食は相談のうネトツポギを出前で頼むことにしました。

私は屋台で売っているようなトツポギをイメージしていたのですが、最近は大鍋に細長いマカロニのようなものが入っているのがメジャーだそうです。今回頼んだトツポギもそちらのタイプでした。ロゼトツポギというクリーミーな味を選んだため、辛さを感じながらも美味しくいただくことが出来ました。他にもティギム(天ぷらのようなもの)やチキンム(漬物のようなもの)、混ぜご飯などもセットで頼んでいただきました。どれもとても美味しかったです。



また、韓国 YWCA でゆっくり過ごせたため、4 人でゆっくりと話せたことも嬉しかったです。特に 2 日目はフィールドトリップもあり、疲れていたところだったため、ダラダラ出来て楽しい時間を過ごせました。

食事のあとは韓国 YWCA を出発し、屋台を見て回りました。食べ物の屋台が多かったのですが、既に満腹だったのでオレオチュロスが刺さったアイスを食べました。

ハラムさんとエリムさんのおかげで、ゆっくり美味しいものを食べることが出来て、とてもいい時間を過ごすことが出来ました。

□三上 奈桜・森 陽菜チーム

韓国側からのカルチュラルナイトは明洞の街を散策するフィールドワークでした。街に繰り出してご飯を食べたりカフェに行ったりするチーム、出前を取ってオフィスでゆっくりするチームなど、韓国側からプランのプレゼンがあり希望するチームを選択して韓国ユースのメンバーと交流を持ちました。

私は韓国グルメと明洞大聖堂をまわるツアーを希望し、韓国で有名キムチチャーハンのチェーン店に行き、チーズタッカルビを食べました。明洞大聖堂を訪れるとちょうどミサをやっているタイミングで、多くの人が礼拝を捧げていました。大聖堂は非常に煌びやかでした。大聖堂の後は、屋台をまわりフルーツ飴をみんな食べました。街の違いなどコミュニケーションを取り韓国のメンバーと仲良くなるなどとても良い時間でした。



3 日目

YWCA ユースによる活動報告:松永 優佳

3 日目に行われた活動報告では、日本 YWCA の畠 舞衣子さん、韓国 YWCA からはパク・ジインさんが報告してくださりました。

まず日本 YWCA から「ユースによるアクション」について報告が行われました。日本は少子高齢化社会であり、ユースの人数もその影響を受けていました。また、学校とバイトで手一杯であり、ボランティアなどの活動を促すことが難しいという現状があります。そこで、クリスチャンのみを会員としない、という取り組みが行われていました。日本は特定の宗教を信仰している人は多くありません。ただでさえユースが多く活動することが難しいなかで、さらに間口を狭める条件を追加するのではなく、クリスチャンでなくとも考え方に共感できる仲間を会員とする方式を取っていました。

日本では 24 の地域 YWCA と 37 の中高 YWCA、さらに準加盟団体が活動しています。報告では、中高 YWCA と地域 YWCA、そして日本 YWCA について紹介がありました。中高 YWCA は、YWCA 部として全国 37 校にあります。ボランティア活動が主であり、学生のうちに身近な取り組みとしてボランティアに参加できるようになっていました。

地域 YWCA では、中高 YWCA での RiseUp!の実施や、国立女性教育会館主催フォーラムへの出展、福島の子どもたちとのキャンプなどが行われていました。特にキャンプを実施している熊本 YWCA では、ユースが主体性を持って企画をしていることが特徴としてありました。

日本 YWCA では中高 YWCA や地域 YWCA と異なり、アドボカシー活動を行う場所としても機能しています。ユース・ジェンダー小委員会ではワークショップを実施し、キャンペーンを行っていました。また、CSW にユースを派遣し、日本のユース女性が抱える諸問題の提起を行っていました。

次に韓国 YWCA から、「青年と社会運動」について報告が行われました。韓国では 11 の地域にユースがあり、ユース総会で全国活動が採択されています。2020 年に韓国 YWCA が 100 周年を迎えたことを契機に、6 名のユースを理事として迎えました。

現在のユースたちは社会問題に直面しているものの、解決に向けた動きや連帯はしていませんでした。しかし、当事者として解決の主体となるべきです。私たちが理想とする社会の実現のために、どう行動し何を選択するかを考える必要があります。

実際に、本を読んで考えたことを冊子にして市民に配ったり、ゼロウエストデーイベントや気候正義のイベントなどを行ったりしていました。市民に分かりやすく問題を伝える活動をしています。「青年」はたびたび、新しい文化の主体としてのみ存在する、と捉えられることがありますが、社会運動の主体となる活動が多く行われていました。運動への参加や啓発活動、政治参加活動などがその一例です。また Zoom や YouTube、Instagram での活動、メタバースを利用した活動など、青年世代は新しい活動方法も実施しています。

現代社会には巨大な課題が多くあり、ユースが本当に解決の主体として社会を変えられるのか、と疑心暗鬼になってしまうこともあるかと思います。しかし韓国 YWCA の歴史は、活動を継続すれば世の中は進歩するということを語ってくれているのです。

日本と韓国それぞれの報告を聞き、ユースとしての活動の方向性が異なっていることに驚きました。日本の特に中高 YWCA や地域 YWCA では、その地域でのボランティアなど自分たちが住む足元での活動が多く見られました。一方で、韓国では社会課題の解決として社会運動への主体的な参加が見られました。日本ではあまり社会運動自体が多くありませんが、従来の活動は継続しつつ、社会課題解決に向けた新たな活動をしていいのではないかと感じました。



特別講演3 青年が主導する社会運動の重要性: 藤田 青空

3日目の特別講演は、Extinction Rebellion の環境活動家であるハチドリさんにお話をいただきました。Extinction Rebellion は環境の危機的な状況に抗うため、政府をはじめとした権力に対して非暴力直接行動を行っています。韓国では国会議事堂の門に自転車の鍵で人間の首を括り付けたり、歩道に緑の絵具を撒いて寝そべったりするなどの行動が紹介されました。実際に行っている様子を映した映像を見せてもらいましたが、どれも衝撃的なものでした。これまでに想像できなかった行動をすることによって環境問題への認識を広げ、政治家の意思決定を引き付けていく必要があると言います。さまざまなニュースで環境活動家の過激な行動を見たことがありましたが、私個人としては行動の意図が理解できない時もあったため今回のお話でその目的を知れたのがよかったです。

この講演の中では、ユースとして活動する上で大切にされていることも教えてもらいました。今の時代に生きている私たちに共通しているキーワードは絶望や連帯の不在です。その社会をユースたちの手で変えなければならないと思いながら活動することは、重荷すぎる、疲れてしまうこともあるかもしれません。しかし、社会運動に参加することは仲間と集まって話をするに繋がり、孤立を防ぐことができます。

Extinction Rebellion では、義務的に活動に参加する人はおらず、ありのままの自分を受け入れてもらえる共同体を作ってきたと言います。活動を組織する上では、コミュニティの安全性やケアを重視しているように見受けられました。自分たちが活動に疲れていないかを常に点検し合う仕組みや、負担を負いすぎないようにしていることが印象に残りました。



今回のお話では、ユースがいかに自分らしく活動に参加できるかを学ぶことができたと思います。私は、YWCA の場でセーフスペースを大切に、活動を行ってきましたが、それに加えて負担を分け合うという視点を大切にしていきたいと感じました。ハチドリさんが言った「社会運動の中で元気が出たし、癒されてきた」という言葉が心に残っています。そのような活動の場に行けるように、継続して考えていきたいと思っています。

3日目ランチ:藤田 青空

最後の食事は、YWCA の近くにある食堂で食べました。私は、牛肉のビビンバを選びました。醤油ベースのソースだったので、辛くなく食べやすかったです。付け合わせに韓国の味噌汁が出てきたのですが、日本の味噌汁との味の違いを知ることができて楽しかったです。共に食べる最後のランチということもあり、食事を取りながら韓国 YWCA の方とたくさんお話できて良かったです。



アクションプラン:三上 奈桜

私たちは日韓ユース・カンファレンスの最後締めくくりとしてアクションプランを定めました。それぞれ3日間のカンファレンスを振り返り、最も印象的だった理由をそれぞれが思い出しながら共有しました。また、お互いに日常生活の中で WPS(女性・平和・安全)に対して私たちができることを一緒に考えました。WPS という広いテーマを自分たちの日常生活に落とし込むんで考えるのはとても難しいことに感じましたが、お互いの意見に共感を寄せながらディスカッションを進めました。最後に WPS に関して、私たちが YWCA とし



て何を共にするかを考えました。それぞれ「連帯」という言葉をキーワードに、より具体的に何ができるかを考えお互いに共有しました。互いに思いつかなかった意見などをもあり、その共有を通してそれぞれの日韓ユース・カンファレンスでの学びを共有し深めることができました。

クロージング:福濱 莉夢

2泊3日のプログラムもあっという間に終わり、ついに閉会の時間を迎えました。

初日に「平和とはどのようなものか」という問いについて、参加者がそれぞれの答えを書いた付箋が壁に貼ってありました。そこに訳をして書き換えが行われており、私たちは WPS を達成するために重要だと考える文言、特に共感するものに3つのシールを貼る作業を行いました。最もシールが多く貼られた付箋は「愛すること」、2番目が「互いの心に寄り添うこと」、3番目が「安全な空間」「弱い人たちが住みやすい社会」という結果になりました。

このどれもが WPS の基礎であると感じたと同時に、特に「安全な空間」は世界 YWCA でも重視されているものであるため、私たちが YWCA として WPS に対して共に取り組んでいくために必要な概念であると感じました。

その後、日本側からのお土産である折り鶴キーホルダーと地域限定のハイチュウを韓国ユースたちに手渡しました。それぞれの平和を願って考えた “平和の挨拶” を英語で交わし合い、別れを惜しむ気持ちで無事に全てのプログラムが終了しました。



参加者個人報告

ユース・ジェンダー小委員会メンバー

五十嵐 望美

あっという間の3日間でしたが、とても充実した学びの多い時間を過ごすことができました。3日間という限られた時間の中で盛り沢山のプログラムだったので、正直もっと日韓ユース同士で議論したり交流したりする時間があればな…という気持ちもありました。しかし、今回のカンファレンスで一緒に過ごした経験をスタートとして、日韓ユースでこれからの活動の中でコラボレーションし、意見交換をしながら連帯していきたいという思いがとても強くなった時間でした。

1日目は、韓国Yのスタッフやユースメンバーが暖かく歓迎して下さり、緊張感もありながら安心して参加することができました。また、1日目の特別講義からWPSに関する土台となる基本的な枠組みを理解するための大事な観点のお話がたくさん聞けたので、今後のプログラムについてもより身が引き締まっていくような時間でした。そして、ナショナルレポートでは、両国の発表を通してお互いが抱えるジェンダー平等を推進する動きに対するバックラッシュの状況など共通の課題が多く持ち合わせていることがわかりました。それまでに準備を重ねてきた日本側の発表をするときは通訳があるものの、うまく伝えることができるのか不安もありましたが、韓国ユースのみんなが熱心に聞いている姿が印象的でした。また、その後の2日目に行ったグループディスカッションでも、それぞれの発表を聞いて多くのことを感じたり考えたりしていた様子を知ることができて、発表したやりがいも感じられました。そして、美味しいお弁当を頂いた後に行った夜の文化交流では、かるたゲームとソーラン節の踊りを通してとても楽しい時間を過ごすことができました。韓国ユースのみんながそれぞれすごく楽しんでくれている様子でした。

そして、2日目のフィールドトリップでは戦争と女性の人権博物館を訪問し、その後に水曜デモにも参加しました。私自身はいずれも2回目の訪問・参加となりましたが、前回初めて参加した経験が今の自分を形作るとても大きな契機になって、それから博物館や水曜デモに関わっている人たちの想いに触れてきたことから、今回の機会を通して再びこの場所に戻って来れたことが何よりも個人的に嬉しい出来事でした。そして、前回初めて水曜デモに参加したときは私が連帯スピーチをする経験を得られたのですが、今回は新たな日韓ユースの仲間たちと共に参加しながら、一緒に歌を歌い、私の後輩にあたる日本のユースメンバーも力強くそれぞれ連帯スピーチをしている姿も見ることができて、感慨深かったです。その後の文化交流の時間

ではプログラム続きの日が続き、私は大きな疲れと眠気に襲われていたので、そこで韓国ユースのチームが
ドラドラできるようにデリバリーの食事を楽しみながらいろんな話ができただけのもとてもありがたかったです。

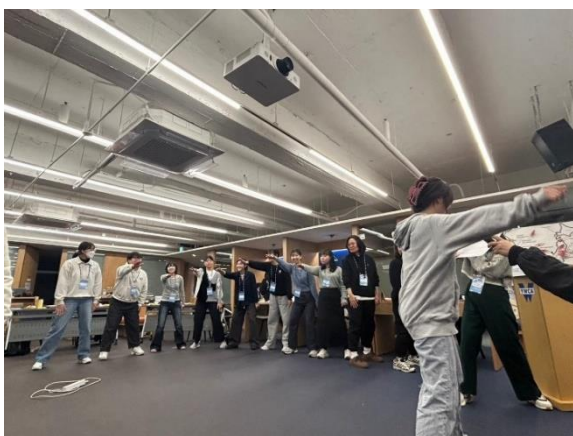
最終日の3日目では活動家の方からユースがセーフスペースを保ちながら運動をすることの意義について
刺激をたくさん受けるお話を聞き、そのあとは日本のメンバーで話し合いながらアクションプランを考えた
時間もとても楽しく、みんなのそれぞれの想いも知ることができてよかったです。また、それを韓国のユース
とも共有したことで、今後お互いユースとして両国が直面する平和や安全保障の課題についてジェンダ
ー・女性の観点から考えていくこと、そのために一緒にこれからも頑張っていきたいという想いになりました。





飯網 萌

まず、今回の日韓ユース・カンファレンスに委員として携われたことに本当に感謝いたします。7月に参加者として参加させていただいたときとは違った経験をすることができました。準備段階からチームのメンバーと話し合い、日韓間の過去と向き合う中で、どのように学びを重ねて現場に行けばいいのか悩み続けていました。学習会を開催したり、参加者の方も含めレポートを作成したり、日本のナショナルレポートを作成する中で、認識できていなかった歴史を学ぶことも多かったですが、現在のジェンダーに関する問題では共通する課題も多いと気づきました。そのため、韓国でユースの方と向き合ってディスカッションを成功させるために、メンバー全員が過去と向き合い続けていたと思います。その結果、水曜デモや女性と人権博物館で深い学びが得られたんだと感じています。今回のカンファレンスで得られた学びを無駄にせず、さまざまな形で報告して、今後につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。



藤田 青空

3日間の中では、戦争と女性の人権博物館を訪れたことが印象に残っています。日本軍性奴隷についてはこれまでの準備期間の間に学びを深めてきましたが、博物館に訪れることでより肌で感じることができました。展示の中では、音や視覚、空間などを通して、ハルモニたちが感じてきた恐怖や不安を体感しました。日本兵が迫ってくる足音や爆発する音など実際の様子を再現した展示は想像よりもずっと恐ろしいものでした。本やインターネットから得られる情報や知識が一気に鮮明になったような気がします。また、展示の中にはハルモニたち一人ひとりの顔や名前、声がありました。歳が変わらない同じ女性が苦しんだ歴史があることが具体的に見えてきました。

日韓のユースによるプレゼンテーションでは、ジェンダー問題に関して共通した議論もあったことが興味深かったです。社会の中で作られた女性らしさや男性らしさが今も残っていることは共通していると思います。政治の分野やユースのコミュニティに、それらの影響がどのようにもたらされ、どのような生きづらさがあるのかを比較しながら聞くことができました。そのような共通課題を認識した上で、特別講義の中のアクティビティができたことは視野を広げることに繋がったと思います。女性が政治により参加できたらどんな社会になるのか想像してポストイットに書き出していきました。実際に望む社会を想像することで、現在何が足りていないのかを具体的に表すことができました。

韓国と日本の歴史を準備期間に学んできましたが、学べば学ぶほど自分には韓国のユースと語り合う資格があるのかということを考えさせられました。今も解決していない問題を考えると、日本人として何も言えないのではないかと思ったからです。この点については、韓国に行ってプログラムを終えても、完全な答えが見い出せたわけではありません。これからも継続して考え続けることや発信していくことで責任を果たせると思っています。さまざまな日韓の問題がある中でも、温かく迎えてくださった韓国 YWCA の皆様、これまでこうした機会を提供し続けてくださった日本 YWCA の方々に感謝したいです。また、このプログラムに際して共に考え準備してきた



日本のユースメンバーにも大変感謝しています。この機会を得た繋がりを大切にしていきたいです。

三上 奈桜

正直に私はこれまで日韓の問題について深く調べ、考えたことがなく、“「日本」が太平洋戦争時に多くの「アジア諸国」に対して酷いことをした”という大きな主語での認識だけにとどまり、それ以上を知らなかったし、知らないからこそ、口をつぐむ紡ぐんできました。今回、初めて日韓の問題について、調べたり他の方のお話を伺ったりする中でこれらの問題の深刻さに気づき、自分は「どの面を下げて韓国に行けばいいのだろうか？韓国に行ってはいけないのではないか？」と思わずにいられませんでした。それは自身が加害の歴史を知る中で、「罪」の意識を強く感じたからです。同時に「わたしたち」の世代が実際に犯した罪ではないこと、それゆえに、当事者になり得ない「わたしたち」という疎外感を同時に感じ、その矛盾の中で、「わたしたち」に関係ないこととして終わっていいのか？と何度も自分に問いました。しかし、カンファレンスに向けた事前勉強会や日本メンバーとの意見交流、オンラインでの韓国 YWCA のユースメンバーとの対話の機会を通して、罪ではなく私が果たすべき「責任」を見つけ出すために韓国へ行こうと思うようになりました。私は実際に現地での日韓ユース・カンファレンスプログラムの中で、国という枠を超えて、ユースメンバーと共に日韓の歴史を学び、さまざまな人の考えや、言葉、経験に触れ、そして実際に人々との対話、交流をする中で、「ここにくることができて本当によかった」と強く思うことができました。特に私が印象深かったのがプログラム 2 日目に訪れた戦争と女性の人権博物館と水曜デモへの参加です。戦争と女性の人権博物館では今まで論文や書籍、インターネット上の情報でしか捉えることのできなかった軍事性奴隷制の問題が、実際の被害者やサバイバーの方々の体験や言葉を何よりも大切された展示を通して、この問題をより立体的、そしてより近く捉えることができました。私は特にサバイバーの方が残した「Those children should live in peaceful world.」や「同じ苦しみを味わった女性たちの希望になりたい。」という言葉を見て、「被害者」ではなく「サバイバー」として生き抜いた方々の強さに感銘を受けました。また、水曜デモではスピーチをする機会をいただきました。そこで私は私自身の本音と共に、それまでの日韓ユース・カンファレンスの活動を通して感じた『日本人は～』『韓国人は～』と言ったような大きな主語ではなく、1 人の人間としての私と皆さん一人一人と言葉を紡ぎ、対話を重ねる機会が重要性』について自分の言葉で伝えることができました。韓国にユースメンバーが私のスピーチの内容に感銘を受けたと伝えてくださった時に、受け入れられるかわか

らないという恐怖を抱きながらも、あの場所に立って、声をあげることができたのは私なりの「責任」を果たす一助になったと実感することができました。私がこの日韓ユース・カンファレンスを終えて最初に考えたことは、「これは日韓の連帯へ向けてのスタートラインであり、この点を私たちが線にして繋げていかなければいけない」と言うことです。



このカンファレンスがゴールではなく、これをスタート地点にして共に連帯しアクションを起こす方法を考えていきたいと思います。

そして、私たち日本メンバーを温かく迎え入れ、たくさんのサポートをして、楽しい時間を提供してくださった韓国 YWCA のユースメンバーとスタッフの皆さんに感謝がつきません。本当にありがとうございました。

山口 紗妃

この度は日本側のユースとして 2023 年度日韓ユース・カンファレンスに派遣していただきありがとうございました。私は 3 日間を通じとくに「仲間の大切さ」を感じました。初めての海外ということもあり、不安も大きかったのですが準備段階からメンバーや職員の皆さまに恵まれ、実りの多い期間を過ごすことができました。

1 日目に日本側が担当した文化交流で韓国のユースと「かるた」をしました。そして、ソーラン節と一緒に踊ることで雰囲気や和み、次の日からのプログラムにも前向きに参加することができました。

2 日目に訪れた戦争と女性の人権博物館では数々の体験者の証言や戦争の歴史から平和に向けて学び、考える時間を過ごすことができました。今も続く戦争が終わり、平和な世界が訪れることを願って、黄色の蝶々型の台紙にユース同士、メッセージを書きました。



さらに、日本軍『慰安婦』問題解決全国行動(水曜デモ)に参加しました。私は初めてデモに参加しました。韓国のユースと「たんぽぽはたんぽぽ」という歌を一緒に歌い、連帯や仲間の重要性を感じながら「慰安婦」問題の解決を訴えました。日韓ユースメンバー、高校生もデモでマイクを持ちながら堂々と政府に向かって、発言している姿には主体者となっていくエネルギーをもらいました。

3 日目の特別講演ではハチドリさん(Extinction Rebellion 活動家)から社会運動に関わる主体性とケアについて学びました。仲間とともに直接行動を続けるハチドリさんらの力強いアクションの姿には心を揺さぶられました。また、アクションケアなど 5 つのケアについて深いお話を聞きました。ハチドリさんのお話から安全や心身の健康を気遣うことで、活動を続けることができのだと感じました。仲間を大切にする具体的な方法を学び得ることができて良かったです。今後の取り組みに活用したいと思います。

私は 3 日間という短い期間でしたが、日韓ユースメンバーと出会い、貴重な経験をすることができました。学び得たことを今後に活かして、平和に向けて歩んでいきたいと思います。改めて、皆さまのご支援やご協力に感謝いたします。



参加メンバー

河越 英里

カンファレンス全体を通して感じたこととして最も大きいのは、連帯の大切さです。私が去年、東京 YWCA のインターンに応募した動機は、民間レベルでの連帯の形成について学ぶためでした。DV 被害者支援について主に学びながら民間レベルでの連帯について学ぶことができましたが、今回のカンファレンスを通して、国を超えて連帯という形で繋がることができるということを、身をもって体感することができました。今回のカンファレンスのテーマは WPS でしたが、韓国でよく使用され、若い世代の間の大きな問題である「ジェンダー葛藤」や、女性の生きづらさについてはお互いのナショナルレポートの中で紹介され、ディスカッションを通してそれぞれの国に似たようなジェンダー間の問題、女性問題を認識できただけでなく、日本軍「慰安婦」問題においても日本政府に抗議するという形を通して、連帯できたことは、今回のカンファレンスに参加することの意味を感じた瞬間でした。

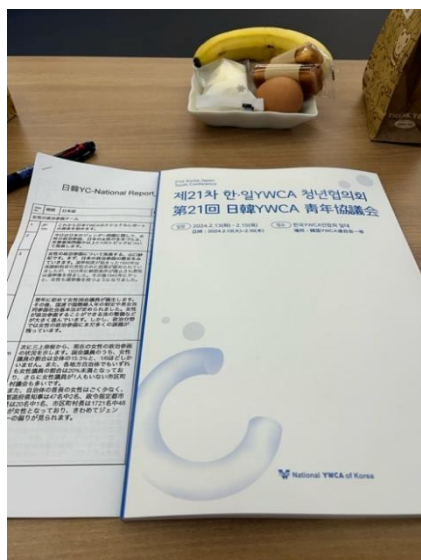
ディスカッションの時に、「日本人であり、日本に対する愛国心もあるはずなのに、一緒に水曜デモに参加して連帯できたことが非常に印象に残っている」という韓国の参加者からのコメントがありました。個人的には(日本人として水曜デモに参加することとは別に)日本人という立場から日本政府に対して声を上げることにに対する抵抗感は全くなかったですが、日本軍「慰安婦」問題に対するメディアの報道などにより、日韓の間にある、決して相容れない問題として認識されている現状を改めて痛感するとともに、日本人として声を上げ問題の解決に取り組む人の姿や声をより積極的に韓国、そして被害に遭った他の国や地域の方々にも継続して届けていく必要があると感じました。また、日本人として日本軍「慰安婦」問題に関わっていくにあたり、日本人としてその問題に関わること、どのような形で日本人として関わっていくことができるのかということについても今後とも検討を重ねたいと思っています。

また、今回のカンファレンスを通じて同じ問題を認識し、その解決のために一緒に闘う仲間を見つけることができたことも非常に良い経験となりました。水曜デモでの連帯発言にあった通り、フェミニストとしての私の人生はバックラッシュに怯え、一人で何もできずにいる暗いものでした。しかし、東京 YWCA のインターンへの参加や日韓カンファレンスへの参加を通じてフェミニストの仲間に出会い、一緒に活動できたことは、今後の私にとって非常に大きな財産になると思います。ナショナルレポートの準備を重ねながら意見を分かち合い、共有することができたこと、そしてナショナルレポートでの報告や水曜デモを通して韓国の活動家とも

繋がることができ、大変良い時間を過ごすことができました。個人的な話になりますが、水曜デモでイ・リョンギョン先生に会えたことは、活動家としての私、大学院生になる私の姿を見せることができた喜びと、これまでの努力が報われた瞬間でした。また、韓国 YWCA のスタッフの中に進学先の大学院を卒業された方も多く、大学院に進学することや、私が韓国 YWCA での活動に興味を持っていることを歓迎してくださり嬉しかったです。

今回のカンファレンスを通して、日本と韓国における女性運動とその繋がりや国際的な連帯の形成について今後も関わっていきたいと強く感じました。仲間を見つけるには、まず行動することが大切だということにも気づいたので、今後も積極的にさまざまな活動に参加しつつ、私が役に立てることがあれば通訳などで参加し、日本の様子や韓国の様子を伝えていきたいと思っています。

最後に、今回のカンファレンスに参加した日本 YWCA のメンバーとまたどこかで会うことができたらと思っています。今回のカンファレンスであまり日本 YWCA の参加者と交流することができなかったのも、皆さんお忙しいとは思いますがまたぜひ対面で会ってお話したいです。そして、職員の皆さま、大変お疲れ様でした。



カンファレンスの冊子と韓国 YWCA が用意してくださった間食



戦争と女性の人権博物館前でウンジさんと

YWCA のあるビルの下の階で



福濱 莉夢

今回のカンファレンスでは、韓国ユースと一緒に水曜デモに参加できたことが最も印象に残っています。日本と韓国には戦争に起因する複雑な関係性がありますが、そんな中で戦争を知らない世代の両国の私たちユースが連帯を示し、一緒に参加できたことに大きな意味があったと感じました。これまで私は慰安婦問題について、自分がどのような立場でいればいいのか分からず、どうしても真に向き合うことができていなかったように思います。加害者側の立場でありながら当事者にはなりきれない私たちですが、自分の国が過去にしたことの加害性と日本人として加害の歴史に向き合うことの必要性に気づかされました。私たちは決して過去に犯した罪を忘れずに、省みることを続けていくという責任を果たしていかなければならないと思います。

私は今回カンファレンスに参加するまで、ジェンダー問題に関心はあったものの無知であり、カンファレンスのテーマであった WPS という概念自体を知りませんでした。3日間のプログラムを通して、この WPS への理解を深めることができたと共に、日韓両国に共通する女性の生きづらさやジェンダー格差、フェミニズム、慰安婦問題などさまざまな視点からジェンダーの問題について韓国のユースたちと対話を交わし、思いを共有できたことが何よりも嬉しかったです。国や言語こそ違いますが、同じ関心や平和を望む意志を持った日韓のユースがその場に集まり、共に学び、思いを共有し、真摯に向き合ったからこそ団結力が生まれたのだ

と思います。今回のカンファレンスで大切な仲間と出会い、共にジェンダー問題について深く考えることができて本当によかったです。



少しずつ良い方向に変化してきてはいますが、日本はまだまだ女性として日常生活の中で生きづらさを感じることの多い社会であり、私自身も性別を理由にモヤモヤを感じた経験があります。これまでは周囲の友人とそのような話をすることはありませんでした。しかし、フェミニズムという概念自体が消滅する社会、当たり前のようにフェミニズムが実現されている社会を目指すためには、周りの友人とも積極的にジェンダー問題について意見を交わし、それぞれが関心を持ち続けることが重要であると考えようになりました。女性の政治参画のレクチャーの中で「重要なのは、口を閉ざしている限り問題は解決されないということ」と学んだように、私たちが日常生活の中で WPS を考え続け、理想とする社会を思い描きながら語り続けること、声をあげ続けていくことが大切であると思います。ハルモニたちの声や勇気を覚え、これ以上ミソジニーの被害にあう人が増えないように行動していく必要性を強く感じました。今回のカンファレンスへの参加を通して、日本と韓国の似ている部分や違う部分を発見し、多くの学びを得ることができました。この学びと経験を活かして、平和の構築のために今後も行動し続けていきたいです。

松永 優佳

日韓ユース・カンファレンスを通して、韓国のユースメンバーと交流し、話し、ともに学んだことにより、私は対話の大切さを痛感しました。日本と韓国の共通の課題、あるいは異なる課題を認識出来たことが、私にとって大きな学びでした。その学びを得られたのは、安心できる相手と場所に対話出来たからだと思います。

1日目と3日目は韓国YWCAの部屋で多くの時間を過ごし、2日目は資料館やデモ会場にも訪問しましたが、どの場所でも自分の尊厳が傷つけられることはありませんでした。また、自分の意見を無下にされたり、嘲笑の対象となったりすることはありませんでした。それらは、職員の皆様やカンファレンスに参加した全員の尽力によるものだと思います。

帰国してからカンファレンスの空間を振り返り、あの安全な空間を自分の周りに多く持つことが大切なのではないか、と考えるようになりました。日本ではたびたび政治的な発言をすることが敬遠されます。しかし私は、日常の会話の中で、社会問題や政治について話したいと考えています。なぜなら、あらゆる問題に対して無関心層が多いと感じるからです。私は日常の中で社会問題や政治について話すことが出来て、かつ安全である空間が増えることが必要なのだと考えます。その空間を増やすために自分に何が出来るのか、これからも学び、考えていこうと思います。



森 陽菜

昨年、YWCAのメンバーになったので、初めてのユース活動でした。日本の参加者ともオンラインで顔を合わせていたものの、異国の地でコミュニケーションを取れるかドキドキしながら渡韓しました。

今回のカンファレンスでは、①女性の政治参加の重要性をWPSの効果的な達成や観点から、②既存の平和構築過程で注目されていない少数者の声と参加(多様性)の包括性の重要性、③そして韓国と日本の女性政治参加が東アジア平和に与える影響と各国若者の役割について理解を深めました。2日目、ソウル市内の戦

争と女性の人権博物館を訪れ、目を背けたくないような歴史の事実を知りました。慰安婦問題や戦時性暴力問題への関心が高まり、日本大使館の前で毎週行われる水曜デモに参加し、韓国メディアなどに取り上げられました。このデモは、日本軍性奴隷制問題解決のための超長期の平和デモであり、国境を超えた連帯の必要性を感じました。また、今回のカンファレンスで学んだこととして、平等と平和にはジレンマがあり、機会の平等が結果の平等に繋がらないことを認識しました。さらに、WPSに関わる問題は多様な変数の相互作用の中で発生することを理解し、全ての人生がより良い方向に変化するために、性別に基づく差別と不平等に取り組むことが重要だと感じました。

個人的な話になりますが、過去はこのような大きく括れば平和を目指すための研修などたくさん参加していたものの、しばらく離れてしまっておりました。というのも平和を実現するという抽象的で大きな目標に取り組む上で不安になってしまうことがあり何が目的で活動をしているのかわからなくなっていたからです。しかし今回の経験で自分の信念を取り戻したような気がしています。今後アドボカシー活動に積極的に参加していきたいと思うきっかけとなったカンファレンスでした。今後ご支援をお願いします。



資料:これまでの日韓ユース・カンファレンスの歩み

開催 年度	開催国	テーマ	内容	参加者
1993	韓国	21世紀アジア主導を導く日韓青少年の役割	*両国理解/両国の青少年の役割討議/ニュースレター制作協議	韓国代表 11名 日本代表 10名
1994	日本	日本社会と市民運動	*ソロモン諸島の森林破壊問題に関する研究	韓国代表 10名 日本代表 15名
1995	韓国	持続可能な発展と市民運動	*1次ソロモン 諸島現場調査(キム・ジョンリン/キム・ミギョン) **台湾YWCA青年会員出席	韓国代表 15名 日本代表 10名 台湾代表 2名
1996	日本	霞ヶ浦の水質汚濁	*環境運動の両国共同対応方案の模索 *地域環境のためのNGOの活動探訪	韓国代表 10名 日本代表 15名
1997	韓国	韓国の大気汚染とその対策	*環境汚染と健康/環境問題を解決するための青少年の役割検討 *2次ソロモン諸島現場調査(イ・ウンヨン/イ・テスン)	韓国代表 13名 日本代表 5名
2001	日本	ジェンダー	*社会、職場、家族の中での女性の問題に関するワークショップと議論	韓国代表 18名 日本代表 14名
2002	韓国	ジェンダー	*家父長制文化の中でのセクハラの実態と性的自己決定権ワークショップおよび議論/文化交流	韓国代表 15名 日本代表 9名
2005	日本	移住外国人女性労働者の生活と人権	*移住外国人女性の生活と人権に関する講義と研究、グループ別討議/文化交流	韓国代表 16名 日本代表 14名
2006	韓国	グローバル化の流れから見る移住外国人女性の生活と人権理解と交流	*両国の移住外国人女性関連の活動報告及び今後の活動提案	韓国代表 15名 日本代表 9名
2007	日本	移住外国人女性と共に変化する地域社会	* テーマ関連両国活動報告及び現場探訪 * 今後の活動のためのワークショップ	韓国代表 16名 日本代表 16名
2008	韓国	サイバー倫理と女性	*女性とサイバー倫理問題/竹島関連の発表と議論	韓国代表 15名 日本代表 15名
2010	日本	原爆被害者はただ日本人だけなのか？	*原子力関連のテーマ研究 *現場探訪:広島 *グループ討論、文化交流、ワークショップ	韓国代表 15名 日本代表 15名
2011	韓国	平和世界のための日韓YWCA青年たちのデモ - 脱北者、在日青年たちと一緒に暮らす -	*テーマ講演、平和ビジョンワークショップ(肌で感じる平和、脱北者青年) *委員会会議、参加プログラム *韓日間文化交流、文化で会おう平和(公演と出会い)	韓国代表 42名 日本代表 22名
2012	日本	脱原発と北東アジアの平和に対する青年運動家としての役割の探求	*基調講演とワークショップ *全体討論とチーム別討議(実践課題議論) *現場探訪(核反対運動市民団体と現場訪)	韓国代表 20名 日本代表 20名

			問) *国家報告書の作成と発表 *文化交流	
2013	韓国	脱原発と北東アジア平和に対する青年運動家としての役割の模索「脱核とエネルギー一定義」	*基調講演と現場の物語(密陽送電塔) * 現場探訪(ソウルエネルギードリームセンター)、歴史探訪(龍山戦争記念館)、文化探訪(仁寺洞、明洞、清溪川など) *国家報告、文化交流 *ワークショップ:アクションプランの確立と声明の発表	韓国代表 20名 日本代表 18名
2014	日本	原子力発電振興政策の危険性	*基調講演、国家報告 *現場探訪(広島、祝島) *文化交流 *アクションプラン作成ワークショップ	韓国代表 20名 日本代表 15名
2016	韓国	核のない世界へのエネルギー転換	*基調講演 *現場探訪(古里原発周辺探訪と住民との出会い、ミンドウルレ(たんぽぽ)共同体と代替技術センター) *国家報告、文化交流 *ワークショップ:アクションプラン作り	韓国代表 21名 日本代表 13名
2018	日本	青年と貧困	*テーマ講演 *現場探訪(鶴橋、eトコセンター、釜ヶ崎-The Home for Children、京都YWCA) *国家報告、文化交流 *ワークショップ:アクションプラン作り	韓国代表 16名
2020	韓国	女性嫌悪と日韓 #MeToo運動 -東アジア女性たちの連帯に向けて	*テーマ講演 *現場探訪(ジェンダー平等図書館「ここ」、戦争と女性の人権博物館) *国家報告、文化交流 *ワークショップ:CSW64韓日YWCAワークショップ企画、アクションプラン作り	韓国代表 15名 日本代表 18名
2021	日本 (ONLINE)	LGBTQ+と宗教	*テーマ講演 *国家報告、自由交流会 *ワークショップ:アクションプランを作る	韓国代表 10名 日本代表 20名

第 21 回日韓ユース・カンファレンス活動報告書

編集・発行 公益財団法人日本 YWCA 2024 年 5 月
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京 YWCA 会館 302 号室

Tel: 03-3292-6121 Fax: 03-3292-6122

E-mail: office-japan@ywca.or.jp

ウェブサイト: <https://www.ywca.or.jp/>